

中川および流域の概要

酒々井町の中心市街地を流れる中川は、その源を酒々井町上郷地先に発し、途中酒々井町の市街地部を貫流し、J R成田線、国道51号並びに京成本線を横断して印旛沼の内水河川である中央干拓低地排水路に注ぐ流域面積3.6 km²、川幅約3 mから5 mの普通河川です。

酒々井町はJ R成田線酒々井駅と京成本線酒々井駅とが近接するなど首都圏への通勤の利便性から、昭和40年代の初頭から住宅団地等の開発が盛んに行われ、流域の中央部には中央台団地48 ha、更に上流部の東酒々井団地56 haの造成などが行われました。

このため、保水・遊水機能を有した森林や水田が減少し、また豊富な湧水は枯渇し、これらの団地には雨水の流出を抑制する調整池等がないことから降雨時には一気に雨水が流出することが水害の主な原因となっております。

近年、中川流域における水害は平成3年9月に2回、平成8年9月、平成13年10月、平成16年9月と頻発しています。

特に平成16年9月の大雨は時間最大降雨量77 mm、連続降雨量186 mmと近年まれに見る降雨量を記録し、上岩橋並びに中川

地先において床上浸水18戸、床下浸水40戸、公共施設など甚大な浸水被害を受け、住民の皆様の生活に大きな影響を及ぼしました。これらのことから早急に中川流域における総合的な治水対策、水循環系再生に取り組む必要があり、平成18年度事業といたしまして測量、地質調査等を行っております。